

テトテトテトテテ



校長だより 令和5年1月31日 NO. 8

★松ろうの魅力★ 乳幼児教育相談「ことりぐみ」

校長だよりでは、グランドデザインの実現に向けた今年度の重点目標「地域連携強化」の取組について発信してきました。このたび、学校ホームページをリニューアルし、新たに「地域連携」のバナーを開設しました。おかげで、校内向けであった地域連携だより「Connect通信」を多くの方にご覧いただけるようになりました。そこで、校長だよりは方向転換し、別の切り口から「松ろうの魅力」を発信していくことにしました。

今回は、乳幼児教育相談「ことりぐみ」を紹介します。島根県には、難聴児対象の療育機関がないため、ろう学校が聴覚障がいのある乳幼児とその保護者の相談・支援を担っています。乳幼児健診、1歳半健診に加え、出生後の新生児聴覚スクリーニング検査が導入された以降は、0歳児からの相談件数も急増しました。

聴覚の発達は、新生児期から急速に進み、周囲の音や音声などの聴覚情報を得て意味を理解したり、言葉を獲得したりしていきます。聴覚障がいのある子どもの場合、聴覚及び言語の発達の特性から、早期発見と早期からの教育的な対応が極めて重要となります。早期からの適切な対応がなかった場合、聴覚を活用する能力に加え、言葉の獲得、コミュニケーション面や学習面にも困難が生じ、その後の子どもの自立や社会参加にも大きな影響を及ぼす場合があります。

早期対応で、さらに重要な役割は、保護者支援です。「耳がきこえないなんて、これからどうなるんだろう・・・」と不安で押しつぶされそうな保護者さんにしっかりと寄り添い、悩みを受け止め、日々のがんばりを丁寧に伝えることで、安心して前向きに子育てができるようにしっかりと支えています。乳幼児期は、人への信頼関係や心理的安定の基礎をつくる大切な時期ですので、乳幼児と保護者を温かく包み込むような環境が必要なのです。

今年度は、20組の親子が「ことりぐみ」に来てくださっています。基本は個別相談ですが、ペアやグループでの活動、また、毎月、「出雲出前相談」(サテライト教室)の実施、遠隔地にお住いの方にはオンライン相談を昨年度から始めています。「ことりぐみ」では、絵本の読み聞かせやおやつづくり、虫取りや芋ほりなど、魅力的な体験活動を準備しています。親子で一緒に遊ぶ体験をとおして、「たのしいね」「またやりたいね」という気持ちの共有ができることを大事にして、2名の専門スタッフが上手に遊びをリードしたり、見守ったりしています。

そして、親子で通じ合えるコミュニケーション方法を一緒に探しながら、伝わる喜び、分かりあえる喜びを感じてもらえるよう取り組んでいます。



1・2歳児グループ活動 みんなでおやつづくり